



金子 鈴太郎 KANEKO Rintaro【チェロ】

桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、ハンガリー国立リスト音楽院に学ぶ。国内外のコンクールで優勝、入賞。2003年～2008年 大阪交響楽団特別首席チェロ奏者。

現在は各オーケストラにゲスト首席として招聘されるほか、サイトウ・キネン・オーケストラ等で活躍中。トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ首席、Super Trio 3℃、長岡京室内アンサンブル、東京バロックプレーヤーズ各メンバー。2022年4月より、響ホール室内合奏団首席チェロ奏者。Music Dialogue アーティスト。



加藤 文枝 KATO Fumie【チェロ】

2006年パリエコールノルマル音楽院に給付生として留学。2010年東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。学内にて、安宅賞、ア kansas賞、三菱地所賞受賞。2010・2011年サントリーホール室内楽アカデミー第1期生。2014年東京芸術大学大学院修士課程修了、ア kansas音楽賞受賞。パリ市立音楽院を満場一致の首席で卒業。第8回ビバホールチェロコンクール第1位。第7・8回東京音楽コンクール弦楽部門第2位。FLAME国際コンクール第3位。平成23年度京都市芸術文化特別奨励者。故 杉山實、ドナルド・リッチャー、アラン・ムニエ、河野文昭、ラファエル・ピドゥの各氏に師事。室内楽を岡山潔、松原勝也、P.ルコール、E.ルサージュ、P.メイエの各氏に師事。財団法人地域創造による公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。オクタヴィア・レコードよりデビュー・アルバム「Parfum」をリリース。

■今後の公演のお知らせ 詳細は、<https://music-dialogue.org/event/> をご覧ください。

室内楽塾 in 東京 2024

公開リハーサル 2月23日(金) / 24日(土) / 25日(日) 10:00~19:00 @旧園田高弘邸

ファイナルコンサート 2月26日(月) 19:00開演 @中目黒GTプラザホール

演奏曲目 プラームス ピアノ五重奏曲 ヘ短調 作品34

プラームス 弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 作品111

プラームス ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25



Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2024-2025 10周年記念コンサート

字幕実況解説付きリハーサル 7月11日(木) 19:00開始 @中目黒GTプラザホール

本公演 7月15日(月・祝) 16:00開演 @Hakuju Hall

第1部 室内楽 / 第2部 DUO / 第3部 弦楽アンサンブル から成る1日限りのフェスティバルです。

※出演者やプログラムは都合により変更になることがある場合がありますことご了承ください。

■ Music Dialogue の活動は、皆様からのご支援により支えられております。

継続的にご寄付を頂いている以下の方々に、心より感謝申し上げます。

椿 紅子様・野口 博司様、福羽 泰紀様、安瀨 聖司様、高橋 達史様、出石 直様、河本 宏子様、
貴田 守亮様、小出 保之様、三尾 徹様、田川 利一様、榊原 福記様、最上 沙紀子様、
山口 聡様、野宮 博様、今田 博之様、岸本 幸子様、島 映子様、佐藤 友厚様 (順不同)



作品解説

◆ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827) : 弦楽五重奏曲 八短調 作品 104 (1817)

1811年に《大公トリオ》の愛称で知られるピアノ三重奏曲第7番、翌1812年には交響曲の第7・8番を書き上げるなど、40代を迎えたベートーヴェンはこれまで以上に順風満帆な創作活動を行っているかのように見えます。しかしながら社会情勢の変化により収入が減ったり、プライベートでのトラブルや難聴の悪化などにより40代半ばになると作曲に集中する環境が整いませんでした。そんな頃合いである1817年に、初心に還る気持ちだったのでしょうか？ 1793～95年にかけて作曲した3つのピアノ三重奏曲 作品1のなかから、第3番を弦楽五重奏に編み直したのが本作です。

弦楽四重奏の歴史に革命を起こした《ラズモフスキー四重奏曲》(1806)を書き上げたあとにもベートーヴェンは2曲の弦楽四重奏を仕上げていますが、その後の新しい方向性を確立するには至りませんでした。40代も後半に差し掛かった1817年、編成を弦楽五重奏に変更して3つの作品に取り組み、未完成の《断章 Hess40》と《フーガ 作品137》、そして全4楽章で構成されるこの八短調の五重奏曲をベートーヴェンは試作。50代にむけた新たな展開を探っていたのでしょう。

(解説：小室敬幸)

◆アルノルト・シェーンベルク(1874-1951) : 弦楽六重奏曲 《浄夜》Op.4 (1899)

シェーンベルク(1874～1951)は楽都ウィーンの出身でありながら、意外にもウィーンのアカデミックな音楽教育に身を預けたことはない。ユダヤ系の家庭に生まれ、父の死をきっかけに実科学校を中退。作曲も演奏も、同じユダヤ系の音楽家たちから私的に学んだ。ヴァーグナーの音楽に触れたのも居心地の良いホールの客席ではなく、その壁の外、公園でだったと彼は語る。世紀末のウィーンでそんな青春時代を送りながら、彼はドイツ語圏の新たな「時代の空気を代表する」リハルト・デーメル(1861-1907)の詩集に心打たれ、初期の歌曲群、そして弦楽六重奏曲《浄夜》と、立て続けにデーメルの詩に取材した作品を仕上げている。

長大な単一楽章形式で書かれた《浄夜》はデーメルの同題詩(内容は日本語訳を参照のこと)と連動したロンド形式的な構成になっており、全編が切れ目なく演奏される。第1ヴァイオリンと第1チェロが冒頭で提示する主題は、何度も分解され、拡大される。終わりが見えないような暗澹とした空気は、やがて二長調の和音で晴らされ、長い時間をかけて天へ昇るかのごとく浄化されていく。

詩人デーメルならではの「生の芸術」に連なる、生々しい人生の肌触りを感じさせる作品ではないだろうか。ブラームスやヴァーグナーら昔日の個性派たちの傑作に情熱を注ぎながら、華々しい「音楽の都」の現実にさらされていた青年シェーンベルクの姿も彷彿される。

(解説：加藤綾子／MD Writing Intern Project)

演奏者プロフィール



北川 千紗 KITAGAWA Chisa 【ヴァイオリン】

第 89 回日本音楽コンクール第 1 位、岩谷賞（聴衆賞）を含む 4 つの特別賞受賞。スピヴァコフ国際ヴァイオリンコンクール（ロシア）第 2 位。3 つの最年少優勝を皮切りに 2009 年より 11 の国際コンクールにおいて優勝とグランプリを獲得。CHANEL ピグマリオンデイズ 2019 アーティスト。大垣市文化奨励賞、市民大賞受賞。東京藝術大学附属音楽高等学校を経て同大学を卒業後桐朋学園大学大学院修士課程を修了。2023 年コンサートヘボウ（アムステルダム）にてデビュー。国内外多数のオーケストラと共演を重ね活動を展開中。



北田 千尋 KITADA Chihiro 【ヴァイオリン】

第 7 回仙台国際音楽コンクール第 4 位。第 1 回ブラチスラヴァ舞台芸術アカデミー国際音楽コンクール第 2 位。カルテット・アマ・ピレのメンバーとして、第 65 回 ARD ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門にて第 3 位及び特別賞受賞。ニューヨークで行われたヤングコンサートアーティスト国際オーディション第 1 位。桐朋学園大学音楽学部卒業、同大学院修士課程修了後、ブリュッセル王立音楽院を経てマーストリヒト音楽院にて研鑽を積む。2024 年 7 月より広島交響楽団コンサートマスター就任予定。



川本 嘉子 KAWAMOTO Yoshiko 【ヴィオラ】

1992 年ジュネーヴ国際コンクール・ヴィオラ部門で最高位(1 位なしの 2 位)。1996 年村松賞、1997 年第 7 回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、2015 年東燃ゼネラル音楽賞・奨励賞受賞。京都アルティ弦楽四重奏団、AOI レジデンス・クワルテットのメンバー。タングルウッド、マールボロ、ダボス、サイトウキネン、アルゲリッチ音楽祭等のフェスティバル、小澤音楽塾、水戸室内管等に参加。また、ソリストとして、これまでにガリー・ベルティーニ、ジャン・フルネ等の著名な指揮者と共演。1999 年～2002 年都響首席奏者。2017 年～2021 年まで NHK 交響楽団の首席客演ヴィオラ奏者を務める。小澤音楽塾、愛知室内オーケストラでは弦楽器アドヴァイザーとして、後進の育成にも積極的に力を注いでいる。類稀なる表現力とテクニックで聴衆を魅了し、日本を代表するヴィオラ奏者の一人として常に第一線で活躍している。



大山 平一郎 OHYAMA Heiichiro 【ヴィオラ】

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972 年マールボロ音楽祭にヴァイオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイルスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973 年カリフォルニア大学助教授に就任。1979 年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987 年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）芸術監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティストック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。